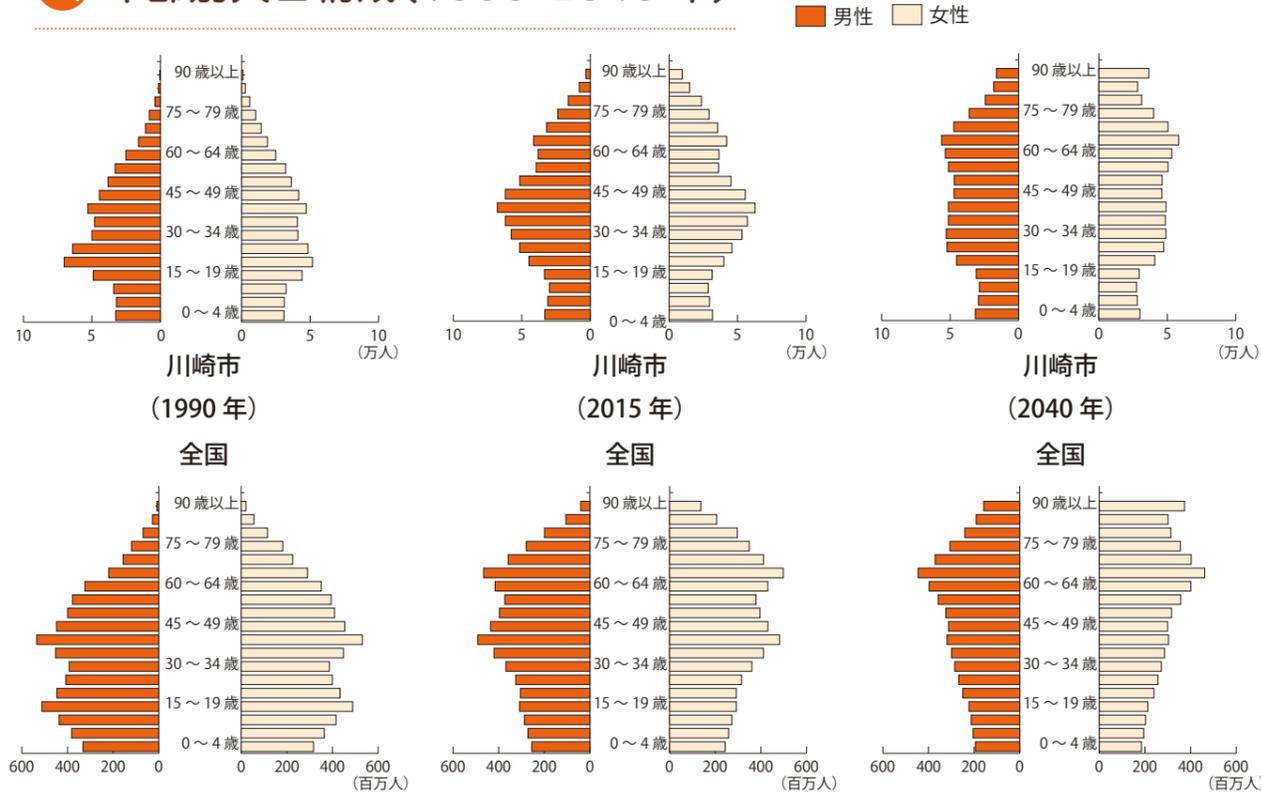


かわさきの人口

川崎市は、1924年7月に人口48,394人で誕生し、2017年4月に153万人を超えました。現在は、政令市の中では20市中6位の人口規模です。ここでは、かわさきで暮らす人びとを「人口」という観点から見てみましょう。

年齢別人口構成(1990-2040年)



出典：1990年は「平成2年国勢調査」、2005年は「平成27年国勢調査」（いずれも総務省統計局）、2040年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（出生中位（死亡中位）推計）」を元に作成

2018年10月1日時点で、わが国は高齢者（65歳以上）人口が28.1%と、世界の中でも非常に高齢化の進んだ社会であるとともに、少子化も進行し人口減少が進んでいます。8割以上の市町村が人口減少している中で、川崎市は現在も人口が増加しています。さらに、全国平均から見ると、まだ若い都市であると言えます。全国と比較した人口ピラミッド*を見てみましょう。1990年には、全国とともに、つりがね型に近い形でしたが、2015年には、中央が膨らんだつぼ型になっ

ています。そして、将来推計によれば、2040年には、60歳代をピークとするより細長いつぼ型になること、つまり、より高齢化人口が増え、少子化も進むと予測されています。川崎市の性比（女性人口を100とした時の男性人口比率）は、1990年には111.0と男性が多かったのですが、2015年には103.1まで減少しています。2040年の推計では、100を割り込み、女性の方が多くなると見込まれています。

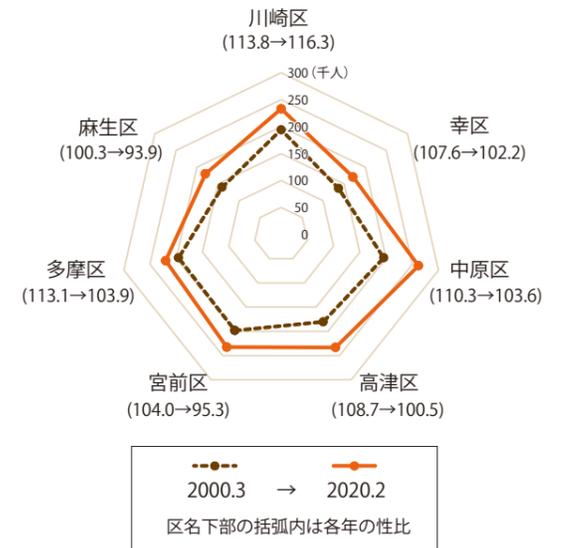
参考文献等

- *ここでは、川崎市と全国の人口をそれぞれ5歳階級別で若い年代を下に、高齢年代を上、男女を左右に分けて並べた図のこと。
- 川崎市「川崎市の世帯数・人口」
<http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/51-4-3-1-0-0-0-0-0-0-0.html> (2020.2.12 取得)
- 川崎市「毎月世帯数・人口」
<http://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000114697.html> (2020.2.12 取得)

区別人口の20年の変化

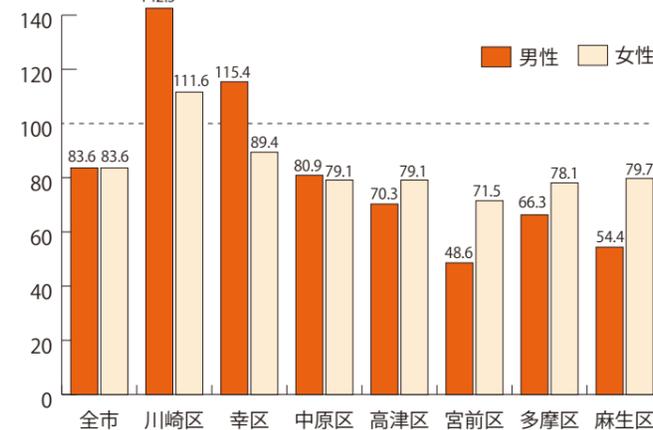
2000年と2020年を比べると、7区全てで人口は増加しており、特に中原区、高津区の人口増加率が高くなっています。性比を区別に見ると、2000年時点には全7区で100を超えており、いずれの区でも男性が多くいました。2020年には、川崎区以外では性比が減少し、宮前区、麻生区では100を割り込んでおり、女性人口が男性人口よりも多くなっています。

川崎市区別人口変化(2000年～2020年)



昼間人口と夜間人口

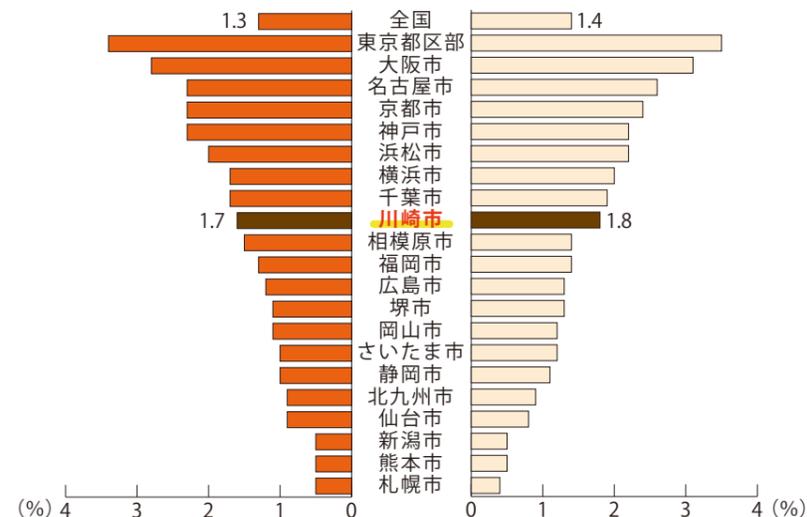
夜間人口を100とした場合の昼間人口の指数(2015年、20~64歳)



注) 昼夜間人口には労働力状態「不詳」を含む。また、昼間人口には従業地・通学地「不詳」で、当地に常住している者を含む。
出典：川崎市「川崎市の昼間人口ー平成27年国勢調査ー」

全市では男女とも昼間人口よりも夜間人口が多いことから、市外に通勤・通学する方が多いことがわかります。区別に見ると、川崎区、幸区では、男性は夜間人口よりも昼間人口が多いことから、区外から働きに来ている男性が多いことがわかります。宮前区と麻生区では、男性は昼間に不在にしている方が他の区と比べて多くなっています。

外国人住民割合(2015年)



川崎市は、全国平均と比較して、男女とも外国人住民割合が高いことがわかります。また、東京都区部や政令市との比較では、横浜市や千葉市に次ぐ割合で、東京都区部と20政令市のなかで9番目となっています。

出典：総務省統計局「平成27年国勢調査」を元に作成